

(個別研修) 菊地 陽子

- 研修テーマ：**
- ・ 地域包括ケアシステム、チームケアでのケアマネジメント手法
 - ・ 認知症、障害者を含む高齢者を取り巻く環境と自己決定の尊重
 - ・ ノーマリゼーションの思想に基づいた援助について学ぶ
 - ・ 地域包括システムの機能

研修先：和みホーム（高齢者介護施設）カリフォルニア州 ロサンゼルス

研修日：5月1～2日

内 容：独立性、敬意、尊厳、プライバシー、選択の自由への配慮について考察

施設概要の確認、開所に伴う手続きや申請、必須資格や受講内容につき

入居者の方よりインタビュー

また、地域や訪問医、薬局や訪問看護師との連携についても伺う。



‘和みホーム’はオーナーの自宅を1年以上かけて改築し、2021年の秋にオープン、6人定員、個室4つ、2人部屋1つとなっている。24時間ケアサービスが提供されている。現在在籍しているスタッフと入居者は全員日本人で日本語環境となっている。

シフトは3交代制。

- ① 17～15時（食事担当） ②15～23時アクティビティ担当 ③23時～7時ナイト担当

食事も日本食を中心にスタッフが調理。水分補給を促進する水分補給プログラム、2時間毎のトイレプログラムを実施。現在、女性4名、男性1名の5名。最高齢は99歳。一見、日本と言うグループホームのような雰囲気であるが入居者2名はホスピスケア対応となっている。

入居者の方々は日本で生まれ育ち、1970年代以降に渡米し家族を持っているが、どんなに英語を流暢に話される方でも高齢になると第一言語である日本語を主に話すようになり、英語を話すご家族とのコミュニケーションが取れなくなる事が多いとのことに驚いたとともに、ご本人とご家族の心情を察するには余りある。ご入居者の方にはコミュニケーションで困らない安心した環境となっている。

また、こちらのホームは住宅街の中にあるが近隣住民とも積極的にコミュニケーションを取っており、普段の挨拶からイベントを開催するときには近隣住民やご家族も訪れオープンにしている。ホームがどんなところかを知ってもらう取り組みをしており、それが地域に受け入れられていることに大きな繋がりがあると思った。更にホームがある COVINA 地域は民族がうまくミックスされている地域であり、人種差別もなく安心して目の前の道を散歩することができる環境であることが素晴らしく、周辺には病院3つ、市役所や銀行、警察署、消防署、美容院、支援センターなどが集結しており日本が目指す地域包括ケアシステムが構築されている。大変素晴らしい環境であることを感じた。



中庭にはポピーやパンジーなどの花がきれいに咲いている。

研修先：Kei-Ai Los Angeles Health Care Center（ナーシングホーム）

研修日：5月3～5日

内 容：パーソナルケアアプローチと提供方法、チームケアでの取り組み方と専門的役割分担について検証。

アクティビティ担当スタッフとともに行動し、病棟の特性を把握し個別ニーズに合ったプログラムへの参加を促す。



3階建てで1階、2階各71床、3階は71床あったところに増築し、Cサイド（認知症病棟）39床、Dサイド48床、合計300床ある。（5月現在空床44床）以前はスタッフ、入居者ともに日本人がほとんどであったが現在日本人は全体の3割ほど、中国、韓国、スペイン系など多国籍となっている。

入居者はMC-LTC（Medical Long Term Care）が8割以上を占めている。その他Private（自費）H/W、HP（ホスピスケア）、VA（軍人）、A（Medicareアメリカの65歳以上の保険）などは1割以下となっている。



アメリカは医療保険の種類が多数あるため申込書は現在なし。入居申込者は直接、担当者に電話連絡し必要事項を聞き取りにて対応して加入している。保険や本人の現在の状況を把握するためそのほうが効率良いとのこと。ケアとアクティビティ専用のケアプランを作成している。

朝の申し送りは多職種が参加し入居者の状態変化についての申し送りや注意事項を一同に周知しており情報共有がしっかりと行われていた。一日通じて各部屋の受け持ち担当制、休憩時は隣室のスタッフに見守りを頼んでいる。

ご家族の希望で週2回パティオに出る方のベッドの近くに誰が見てもわかるように掲示、周知されていた。

また訪問中の5月5日はメキシコの一部の地域で独立を祝う記念日（シンコ・デ・マヨ）を祝う掲示がダイニングルームに飾ってあった。食事もそれぞれの民族に配慮されタコスやにゅうめん、納豆とおにぎりなどが提供されていた。

転倒した方の居室のネームプレートにオレンジ色の星マークがついており転倒の再発防止策を周知実施し評価を行っていた。ベッドセンサー、床マット、車椅子用座面センサーを使用している方も一定数いた。入居している方は母国語を話すことが多く、意思疎通が困難なときは母国語を話すスタッフに助けを求めることも多い様子であった。それぞれの国の文化を尊重し、専門的役割分担がしっかりと行われている様子であった。